

Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

● 東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙 ●



みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 25 2017 冬

(表示価格は税別です)

移転いたしました 113-0033 東京都文京区本郷 2-20-7 tel. 03-3814-0131 www.msz.co.jp

科学は、こんなふうに進んでいくものなのだ。

垂水雄二



アルダブラ諸島から海洋を6週間以上漂流してタンザニアの海岸に流れついたアルダブラゾウガメ(2004年)

生物学には、容易に決着のつかない長い論争がいくつもある。たとえば、「生まれか育ちか(Nature vs. Nurture)」というフレーズに要約される遺伝子決定論と環境決定論の対立である。古くは「前成説」対「後成説」という形をとり、現在では知能や性格の遺伝の問題などとして取り上げられる。科学の発展と時代思潮の変遷につれて、天秤の針は揺れ動いたが、ヒトゲノム計画を経て、遺伝子の作用が明らかになり、ほぼ決着がつきつつある。それは、マット・リドレーがいみじくも「生まれは育ちを通じて(Nature via Nurture)」という言葉で表現したように、遺伝子が基本を決めているが、その発現は環境の影響を受けるといえるものである。どちらの説に

もそれなりの理があるという、無難な結論である。また、ダーウィンの時代以来激しい論争があった進化の「激変説(天変地異説)」と「漸進説」についても同じことが言える。進化の要因として、絶滅のような大事件が重要なのか、小さな変化の累積的な効果か、重要なのかという議論であり、不連続的な進化を主張するという意味で、前者の変形版といえるのが、「跳躍説」や「突然変異説」であり、ステイヴン・ジェイ・グールドらの「断続平衡説」もこの範疇に入るといえる。集団遺伝学に依拠するネオダーウィン主義では、漸進説が正統派であるが、進化の歴史を振り返るとき、五大絶滅のような大事件が重要な役割を果たしたことはまぎれもなく

いし、突然変異の役割も無視できない。またしても、二者択一は成り立たないのである。さて、アラン・デケイロスによる本書『サルは大西洋を渡った』は、生物地理学の分野における、もう一つの重大な科学的論争の歴史と現在を扱ったものである。世界には、自然にひろがっていったとは考えられない、飛び地状の分布をしている生物が数多く見られる。ダーウィンは、それを創造説否定の論拠と考え、「種の起原」の第一章と第二章において、そうした分布の説明を試みた。彼の説明は、かつて連続的だった分布が地質的・気候的变化によって断絶したか、さもなければ、漂流といった、たまたまの手段によって分布をひろげたというものであった

(もちろんダーウィンの時代には大陸移動説どころか、遺伝学さえなかった。科学的根拠は乏しく彼の鋭い洞察力だけがそうした考察をなした。とはいえ彼は、植物を例に、生物が海を越えて移動できるかを問う実証的な研究もしていた。この二つの説明のどちらが本当であるのかという論争の歴史が本書の主題であり、著者の言い方を用いれば「分断分布説」と「長距離分散説」の栄枯盛衰の物語である。生物地理学は、地質学、古生物学、系統分類学などの総合的な知見の上に成立するもので、それらの学問の発展に大きく影響される。プレートテクトニクスという形で生まれ変わった大陸移動説は、この論争に決着を付けた

かに思われた。ゴンドワナ大陸の分裂と新大陸の形成で、不規則な分布はすべて説明ができる。とされ、分類学における分岐学の台頭とあいまって、走鳥類の分布についてのような、きれいなお話が次々と語られた。しかし、分子時計や、DNAの塩基配列の解読技術の発展を通じて、分断分布説が前提としていた年代や分岐の順序の誤りが指摘されることになった。そこへもってきて、さまざまな生物において、海を越える長距離分散の実例が発見され、天秤の針はいまや「長距離分散説」の方に大きく傾いている。著者は、その原題が示すように、サル(新世界サルの祖先)を含めて、ありえないことのように思われていた長距離分散が、生物界におけるかなり普遍的な現象であるとし、こちらに軍配を上げる。

しかし、こんなふうには要約してしまえば、この本の面白さはほとんど伝わらない。論争にかかわった多数の学者の実験的研究と、その対象となった多様な生き物、舞台となったニューギランド、ハワイ諸島、マダガスカル島などの自然、学者たちの自らの世界観へのこだわり、発見の喜び、科学的事実を突きつけられるの転向など、生身の人間としての研究者の心の動きが、みごとに語り口で綴られていて、まさに一級品の科学読み物である。

物語全体の序章のような形で、ほとんどまるまる一章を費やして書かれた、プレートテクトニクス理論の受容に至る波乱に満ちた軌跡は、それだけで一冊の本として成立するものである。事実の積み重ねと、学説が発展していく過程のダイナミズムは、固唾をのむほど面白い。時には罵りあいにもなる激しい学問論争も、やがては事実の積み重ねによって決着がつく。だが、上の例に見るように、生物学の論争では、一方が100%正しいという結論に至らないのがふつうである。自然は例外に満ち、複雑なのである。(たるみ・ゆうじ 翻訳家、サイエンスライター)

「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

大西洋の島に至るカエルの旅や、恐竜の海越えといった奇跡的な分散の歴史を追って、歴史生物地理学の世界を覗き込めば、プレートテクトニクスや気候変動、化石記録に分子時計などの幅広い知見がひしめき合っている。個性豊かな研究者たちが、生物の来歴をめぐって激しく論争した経緯も、本書は臨場感たっぷりに映し出している。

読み進むにつれてますます「ありそうもない度合い」の高い海越えの事例が登場するので、その頂点までどうかお見逃しなく。それらは「私たちの世界は、なぜ今このような姿をしているのか?」という大きな問いの大切なピースとなっている。「地球上の生命がたどった道は、ラダムで、ありそうもない出来事にとびたび翻弄され、新たな道へと向きを逸らされてきた……そのたぐいの出来事が必然である歴史に畏敬の念を持つべきだ(本文より)『生物学』四六判・480頁・三三〇〇円

「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

大西洋の島に至るカエルの旅や、恐竜の海越えといった奇跡的な分散の歴史を追って、歴史生物地理学の世界を覗き込めば、プレートテクトニクスや気候変動、化石記録に分子時計などの幅広い知見がひしめき合っている。個性豊かな研究者たちが、生物の来歴をめぐって激しく論争した経緯も、本書は臨場感たっぷりに映し出している。

読み進むにつれてますます「ありそうもない度合い」の高い海越えの事例が登場するので、その頂点までどうかお見逃しなく。それらは「私たちの世界は、なぜ今このような姿をしているのか?」という大きな問いの大切なピースとなっている。「地球上の生命がたどった道は、ラダムで、ありそうもない出来事にとびたび翻弄され、新たな道へと向きを逸らされてきた……そのたぐいの出来事が必然である歴史に畏敬の念を持つべきだ(本文より)『生物学』四六判・480頁・三三〇〇円

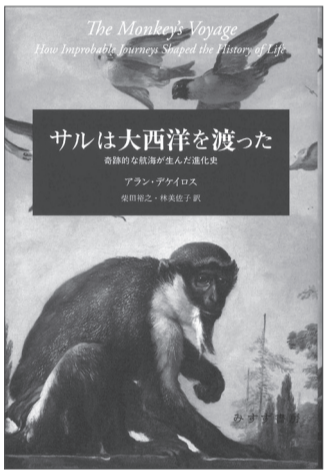
「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

海という障壁を越えた生物たちの自然史

アラン・デケイロス

《サルは大西洋を渡った 奇跡的な航海が生んだ進化史》

柴田裕之・林美佐子訳



「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

「ありそうもない、稀有な、不可思議な、奇跡的な」ルートこそが本物だった。植物や、翅のない昆虫、塩水に弱い両生類やサルなど、「海越え」ができないはずの生きものたちが、大海原を渡って分布を広げた歴史が明らかになりつつある。アフリカで出現した霊長類はいかにして南アメリカにたどりついたのか。どのようにして、「走鳥類」と呼ばれる飛べない鳥が、海に隔てられたあちこちの陸地に生息するようになったのか。生き物たちの「不連続な分布」の謎をめぐって、長年のあいだ標準的説明とされてきた分断分布説のパラダイムに革新が起き始めていると著者はいう。新たに浮上しているのは、動植物がこちらの陸塊からこちらの陸塊へと奇跡の航海を遂げた、躍動感とサプライズに満ちた自然史である。コンゴ川を下って東アフリカから

幕末から明治への列島の歩みは、暗から明への昇華ではない。それは列強による開国への圧力を前に、転向とその隠蔽、新政府の正統性の急造を伴いつつ近代国家建設を余儀なくされる過程だった。そこでは、植民地化への危機感と理不尽への抵抗を糧に、普遍的価値のうに新社会を構想する思考が模索されてもいた。外来ではないこの国に地生えの思考が育まれる契機は、しかし、皇国主義イデオロギー席卷のなかで影を潜めていく。帰結の一つは、今後も続く第二極の不在である。

本書は、その思考の系譜を、吉田松陰・中岡慎太郎、坂本龍馬、福沢諭吉、中江兆民、北村透谷、夏目漱石、朝河貫一、中里介山らに辿り、その周期性を歴史の行間にあぶり

長期的、世界的視点から

マルク・レイヴィンソン
松本裕記

多くの人が望む高度成長は、再び訪れるのだろうか？本書は、第二次世界大戦後の高度成長期がむしろ「例外」であり、現状の低成長こそが「平常」経済であるという見方を、戦後史を丹念にたどることで、裏つけていく。

戦後ブームからオイルショックへ。そしてそこから生まれたオイルマネーによる金融危機と政治の右転——一九四〇年代から八〇年代にかけてのこの巨視的な構図の上に、西ドイツ経済の黎明期をリードした経済相カール・シラー、FRB議長として七〇年代のインフレに対峙したアーサー・

松陰から漱石、介山まで 精神史的試論

野口良平
《幕末的思考》



幕末から明治への列島の歩みは、暗から明への昇華ではない。それは列強による開国への圧力を前に、転向とその隠蔽、新政府の正統性の急造を伴いつつ近代国家建設を余儀なくされる過程だった。そこでは、植民地化への危機感と理不尽への抵抗を糧に、普遍的価値のうに新社会を構想する思考が模索されてもいた。外来ではないこの国に地生えの思考が育まれる契機は、しかし、皇国主義イデオロギー席卷のなかで影を潜めていく。帰結の一つは、今後も続く第二極の不在である。



「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

「例外時代」は、どのような経緯で生まれ、具体的に何が書かれているのか。そこからどんな事態が生まれ、問題が起きてくるのか。なぜ改定も廃止もされないまま現在

地を這う取材と最新の学術成果

トム・ウェインライト
《ハッパノミクス 麻薬カルテルの経済学》
千葉敏生訳

「ラテンアメリカを訪れた私は、麻薬産業の恐ろしい供給面を自撃することになった。そして、麻薬密売について書けば書くほど、麻薬ビジネスが組織的グローバル・ビジネスと酷似していることに気づきはじめた。…蒸し暑い独房で一味の支配する縄張りの広さを私に自慢したエルサルバドルの極悪ギャングのボスは、合併を発表するCEOのような口ぶりで、抗争中のギャン

「ラテンアメリカを訪れた私は、麻薬産業の恐ろしい供給面を自撃することになった。そして、麻薬密売について書けば書くほど、麻薬ビジネスが組織的グローバル・ビジネスと酷似していることに気づきはじめた。…蒸し暑い独房で一味の支配する縄張りの広さを私に自慢したエルサルバドルの極悪ギャングのボスは、合併を発表するCEOのような口ぶりで、抗争中のギャン

「ラテンアメリカを訪れた私は、麻薬産業の恐ろしい供給面を自撃することになった。そして、麻薬密売について書けば書くほど、麻薬ビジネスが組織的グローバル・ビジネスと酷似していることに気づきはじめた。…蒸し暑い独房で一味の支配する縄張りの広さを私に自慢したエルサルバドルの極悪ギャングのボスは、合併を発表するCEOのような口ぶりで、抗争中のギャン

「ラテンアメリカを訪れた私は、麻薬産業の恐ろしい供給面を自撃することになった。そして、麻薬密売について書けば書くほど、麻薬ビジネスが組織的グローバル・ビジネスと酷似していることに気づきはじめた。…蒸し暑い独房で一味の支配する縄張りの広さを私に自慢したエルサルバドルの極悪ギャングのボスは、合併を発表するCEOのような口ぶりで、抗争中のギャン

命を支えた交友

ロニーツ／《ヴァルター・ベンヤミン》
ゲッテ編
伊藤鈴木
三島記
往復書簡 1930-1940

二十世紀の知的アヴァンギャルドとして輝きを放ちつづけるベンヤミンと、やがて彼の盟友テオドール・アドルノの妻となるグレーテル。二人の書簡180通を初公開する。ナチ党の政権奪取後、亡命したベンヤミンをグレーテルは文通と送金によって精神的、経済的に支えた。ベンヤミンは読書や執筆の計画、研究の進捗を書き送った。困窮、孤独や不安も隠さなかった。実現しなかった企画、掲載されなかった原稿…手紙には、研究対象を追い求める不器用な男と、婚約者アドル

二十世紀の知的アヴァンギャルドとして輝きを放ちつづけるベンヤミンと、やがて彼の盟友テオドール・アドルノの妻となるグレーテル。二人の書簡180通を初公開する。ナチ党の政権奪取後、亡命したベンヤミンをグレーテルは文通と送金によって精神的、経済的に支えた。ベンヤミンは読書や執筆の計画、研究の進捗を書き送った。困窮、孤独や不安も隠さなかった。実現しなかった企画、掲載されなかった原稿…手紙には、研究対象を追い求める不器用な男と、婚約者アドル

二十世紀の知的アヴァンギャルドとして輝きを放ちつづけるベンヤミンと、やがて彼の盟友テオドール・アドルノの妻となるグレーテル。二人の書簡180通を初公開する。ナチ党の政権奪取後、亡命したベンヤミンをグレーテルは文通と送金によって精神的、経済的に支えた。ベンヤミンは読書や執筆の計画、研究の進捗を書き送った。困窮、孤独や不安も隠さなかった。実現しなかった企画、掲載されなかった原稿…手紙には、研究対象を追い求める不器用な男と、婚約者アドル

二十世紀の知的アヴァンギャルドとして輝きを放ちつづけるベンヤミンと、やがて彼の盟友テオドール・アドルノの妻となるグレーテル。二人の書簡180通を初公開する。ナチ党の政権奪取後、亡命したベンヤミンをグレーテルは文通と送金によって精神的、経済的に支えた。ベンヤミンは読書や執筆の計画、研究の進捗を書き送った。困窮、孤独や不安も隠さなかった。実現しなかった企画、掲載されなかった原稿…手紙には、研究対象を追い求める不器用な男と、婚約者アドル

晩年の思考のエッセンス

テオドール・W・アドルノ
竹峰義和訳
《横断像なしに》
美学小論集

アドルノ生涯の課題であったモダニズム芸術の批判的擁護の論考を中心に、映画論や自伝的エッセイも収録する。遺稿となった『美学理論』を芸術実践の面から補完する一九六〇年代の論集であり、規範「伝統」「文化産業」「芸術社会学」「マネージメント」「バロック」といった主題に焦点を当てながら、音楽や美術から建築や映画まで、多角的に論じる。さらに、幼年時代の回想や旅行記からは、他の著作には表れない哲学者のプライヴェートな側面も窺える。アドルノ晩年の思考のエッセンスを併せて描く。

アドルノ生涯の課題であったモダニズム芸術の批判的擁護の論考を中心に、映画論や自伝的エッセイも収録する。遺稿となった『美学理論』を芸術実践の面から補完する一九六〇年代の論集であり、規範「伝統」「文化産業」「芸術社会学」「マネージメント」「バロック」といった主題に焦点を当てながら、音楽や美術から建築や映画まで、多角的に論じる。さらに、幼年時代の回想や旅行記からは、他の著作には表れない哲学者のプライヴェートな側面も窺える。アドルノ晩年の思考のエッセンスを併せて描く。

アドルノ生涯の課題であったモダニズム芸術の批判的擁護の論考を中心に、映画論や自伝的エッセイも収録する。遺稿となった『美学理論』を芸術実践の面から補完する一九六〇年代の論集であり、規範「伝統」「文化産業」「芸術社会学」「マネージメント」「バロック」といった主題に焦点を当てながら、音楽や美術から建築や映画まで、多角的に論じる。さらに、幼年時代の回想や旅行記からは、他の著作には表れない哲学者のプライヴェートな側面も窺える。アドルノ晩年の思考のエッセンスを併せて描く。

アドルノ生涯の課題であったモダニズム芸術の批判的擁護の論考を中心に、映画論や自伝的エッセイも収録する。遺稿となった『美学理論』を芸術実践の面から補完する一九六〇年代の論集であり、規範「伝統」「文化産業」「芸術社会学」「マネージメント」「バロック」といった主題に焦点を当てながら、音楽や美術から建築や映画まで、多角的に論じる。さらに、幼年時代の回想や旅行記からは、他の著作には表れない哲学者のプライヴェートな側面も窺える。アドルノ晩年の思考のエッセンスを併せて描く。

アドルノ生涯の課題であったモダニズム芸術の批判的擁護の論考を中心に、映画論や自伝的エッセイも収録する。遺稿となった『美学理論』を芸術実践の面から補完する一九六〇年代の論集であり、規範「伝統」「文化産業」「芸術社会学」「マネージメント」「バロック」といった主題に焦点を当てながら、音楽や美術から建築や映画まで、多角的に論じる。さらに、幼年時代の回想や旅行記からは、他の著作には表れない哲学者のプライヴェートな側面も窺える。アドルノ晩年の思考のエッセンスを併せて描く。

アドルノ生涯の課題であったモダニズム芸術の批判的擁護の論考を中心に、映画論や自伝的エッセイも収録する。遺稿となった『美学理論』を芸術実践の面から補完する一九六〇年代の論集であり、規範「伝統」「文化産業」「芸術社会学」「マネージメント」「バロック」といった主題に焦点を当てながら、音楽や美術から建築や映画まで、多角的に論じる。さらに、幼年時代の回想や旅行記からは、他の著作には表れない哲学者のプライヴェートな側面も窺える。アドルノ晩年の思考のエッセンスを併せて描く。

半世紀ぶりの新訳成る

スピノザ
佐藤一郎訳
《知性改善論・短論文》

初期著作二篇、半世紀ぶりに新訳の登場である。ユダヤ人共同体から破門後のスピノザが、デカルトとは異なる独自の方法論を展開する未完の書『知性改善論』と、後年『エチカ』に結実する形而上学、認識論、倫理説を説く『神、人間とそのさいわい』についての短論文を、それぞれラテン語原文とオランダ

初期著作二篇、半世紀ぶりに新訳の登場である。ユダヤ人共同体から破門後のスピノザが、デカルトとは異なる独自の方法論を展開する未完の書『知性改善論』と、後年『エチカ』に結実する形而上学、認識論、倫理説を説く『神、人間とそのさいわい』についての短論文を、それぞれラテン語原文とオランダ

初期著作二篇、半世紀ぶりに新訳の登場である。ユダヤ人共同体から破門後のスピノザが、デカルトとは異なる独自の方法論を展開する未完の書『知性改善論』と、後年『エチカ』に結実する形而上学、認識論、倫理説を説く『神、人間とそのさいわい』についての短論文を、それぞれラテン語原文とオランダ

初期著作二篇、半世紀ぶりに新訳の登場である。ユダヤ人共同体から破門後のスピノザが、デカルトとは異なる独自の方法論を展開する未完の書『知性改善論』と、後年『エチカ』に結実する形而上学、認識論、倫理説を説く『神、人間とそのさいわい』についての短論文を、それぞれラテン語原文とオランダ

初期著作二篇、半世紀ぶりに新訳の登場である。ユダヤ人共同体から破門後のスピノザが、デカルトとは異なる独自の方法論を展開する未完の書『知性改善論』と、後年『エチカ』に結実する形而上学、認識論、倫理説を説く『神、人間とそのさいわい』についての短論文を、それぞれラテン語原文とオランダ

初期著作二篇、半世紀ぶりに新訳の登場である。ユダヤ人共同体から破門後のスピノザが、デカルトとは異なる独自の方法論を展開する未完の書『知性改善論』と、後年『エチカ』に結実する形而上学、認識論、倫理説を説く『神、人間とそのさいわい』についての短論文を、それぞれラテン語原文とオランダ

みすず書房新刊

(2017.8.11)
東京・文京本郷2
〒113-8603
(価格は税別です)

トラウマの過去
産業革命から第二次世界大戦まで
ミカエリ・レルナー編
未曾有の外傷的出来事の後、何を作らねば、語り継ぐべきか。分野を超えた重要書。金吉晴訳 六八〇〇円

映画とキリスト
岡田暁司 芸術形態、テーマ、物語、表現手法に息づくキリスト教を西洋美術史家が多角的に分析する。待望の映画論 四〇〇〇円

予期せぬ瞬間

乗越えられないか
ガウデ 医療にはなぜ医師にも予測できないことが起こるのか？「死すべき定め」の著者の第一作。古屋・小田嶋訳 二八〇〇円

インデリオ社会史
アンデス植民地時代を生きた人々
網野敏哉 近世クロバリゼーションの渦中にあったアンデス世界、再創造されるインカ表象…。先住民の魂に触れる。五五〇〇円

ポチヨムキン都市
ロイス・モタニズ 移住期を代表する建築家が縦横無尽に語った全四十五篇(本邦初訳多数)。解題・鈴木一。加藤謙訳 五八〇〇円

レーナの日記

闘戦を生きた少女
ムーヒナ 飢餓と爆撃と酷寒の都市で、食べ物と星への執着が命をつないだ。16歳、ぎりぎりの生存。佐々木・吉原訳 三四〇〇円

ライフ・プロジェクト
7万人の生からわかったこと
ピアン ある期間に生まれたすべての赤ちゃんとその生涯を追跡するコホート研究。その成果と研究者の奮闘。大田直子訳 四六〇〇円

大気を変える錬金術
ハイパー・ボッシュと化学の世紀「新装版」
ハイガー 固定窒素という化学史上最大の発明が生物圏を変容させ、産業と戦争を駆動した戦慄の歴史。渡会訳 白川解説 四四〇〇円

ダンテ「神曲」講義

「新装版」
今道友信 哲学の仕事の傍ら、数十年にわたる「神曲」文獻などを読み続けてきた成果。(詩人・哲学者)ダンテの世界。一四〇〇〇円

最後のソ連世代
フレジネフからベレストロイカまで
ユルチャク ソ連崩壊とは何だったのか？後期ソ連社会を内から照らしその謎に迫る。ソ連を知る必読書。半谷史郎訳 六二〇〇円

夜と霧 新版
フランクル 池田香代子訳 一五〇〇円
朗読・辻親八 再生時間5時間19分

アメリカを探る

自然と作為
斎藤真 建国以来現在までを貫くアメリカを理解するために、植民地期から外交・戦争・大統領など、第一人者の遺稿集。五五〇〇円

「内なる外国人」
A病院
北山修編著 英国で精神分析に出会った折に診た二人の患者の治療記録。北山理論の出发点。飯島・大森解説 金坂他訳 三〇〇〇円

断章としての身体 1971-1974
理論家から作家への移行期。「エクリチュール」についての変奏。「では、中国は？」など初紹介の全三篇。吉村和明訳 六四〇〇円

全体主義の起原

「全三巻」
アーレント 不朽の名著を最新研究も反映し読み易くして送る。1反ユダヤ主義 四五〇〇円 2帝国主義 3全体主義 各四八〇〇円

エルサレムのアイヒマン 新版
アーレント アイヒマン裁判から着目し考え、理解し、判断したことは、最新研究を反映し読み易くした新版。大久保和郎訳 四四〇〇円

モンテ・ニユーエセー抄 新装版
驚きの読みやすさ！と絶賛。それまでのモンテ・ニユーエセーを「絶え」した、エッセンシャルな一巻本。宮下志朗編訳 三〇〇〇円

ゲームライフ

ぼくは黎明期のゲームに大事ごとを教わった
クルーゲル ゲームが意識の流れに侵入する感覚や、ゲームと子供の親密な関係性を内面から語る新しい試み。武藤陽生訳 二六〇〇〇円

ゲームライフ
ぼくは黎明期のゲームに大事ごとを教わった
クルーゲル ゲームが意識の流れに侵入する感覚や、ゲームと子供の親密な関係性を内面から語る新しい試み。武藤陽生訳 二六〇〇〇円

ゲームライフ
ぼくは黎明期のゲームに大事ごとを教わった
クルーゲル ゲームが意識の流れに侵入する感覚や、ゲームと子供の親密な関係性を内面から語る新しい試み。武藤陽生訳 二六〇〇〇円

オランダのオタク

オランダのオタク
オランダのオタク
オランダのオタク

オランダのオタク
オランダのオタク
オランダのオタク

オランダのオタク
オランダのオタク
オランダのオタク

初の歴史的考察

ジェネリック・A・グリーン
野中香方子訳

《ジェネリック それは新薬と同じなのか》

ジェネリック医薬品といえ、従来の薬よりも安い、なんと不安だというイメージではないだろうか。本書はジェネリック医薬品の誕生から社会に定着するまでを、はじめて明らかにする。

ジェネリック薬とは、先発薬の特許満了後に開発された、同じ効き目をもつ薬のこと。開発にかかる費用が少ないため、低価格で販売できる。ジェネリックは先発薬と同じ効き目があるとされているが、この「同じ」をめぐっては激しい議論があった。ジェネリックは先発薬と主成分

東アジア移動文学論

西成彦 《外地巡礼 「越境的」日本語文学論》



著者近影

「冷戦の影響が深く刻みこまれている東アジアにおいて歴史も文学史も何もかもが流動的、そして進行形である。そしてそれがまさに進行形であることを最もはっきりと示しているのが各語圏文学のまさに周縁に位置しているマージナルな文学なのである。旧来

ある。

日本人は何か大きな災厄があると「第二の敗戦」という表現をよく用いる。その汚点と不名誉をどう克服してきたか。著者は比較文化論の方法を用いて鋭く迫る。家族や学校、学校教育に着目し、とくに一九六〇年代から二〇一〇年代を

小菅信子 橋本明子 《日本の長い戦後》



山岡由美訳
山岡由美訳
を讀む

本書はアメリカの同時多発テロや北朝鮮の核武装、日本の再軍備・改憲論争をふまえて、日本人は「戦後の分岐点」に立っていると述べる。歴史論争は喧しいが、それによって国内の亀裂はむしろ深まり、いよいよ膠着状態に

教育機関としての図書館

根本彰 《情報リテラシーのための図書館 日本の教育制度と図書館の改革》



情報が氾濫する社会を生きる私たちに、第一資料の保存庫であり、公共の情報サービス機関である図書館は、信頼の置ける、身近な情報拠点だ。これからの図書館は、

「冷戦の影響が深く刻みこまれている東アジアにおいて歴史も文学史も何もかもが流動的、そして進行形である。そしてそれがまさに進行形であることを最もはっきりと示しているのが各語圏文学のまさに周縁に位置しているマージナルな文学なのである。旧来

答える知恵は過去にある

山内昌之 《歴史家の展望鏡》



「読書アンケート」特集掲載の「二月合併号は一月一日発行です」ご注文は、切手四一〇円(送料込)を必ず書房営業部「みすず」係へお送り下さい。



「らしさ」はどこから来るのか

ケイト・フォックス 《イングリッシュネス 英国人のふるまいのルール》
北條文緒・香川由紀子訳

晴れていよすが吹雪こうが会えばまず天気の話。ひとこと話すにも独特のユーモアとアイロニー。キヌやハグにとまどいを見せ、謙遜と控えめな表現で感情と本音を包み隠す。時に奇異に、時に冷たく肩すかしにも感じられる、そんなイギリス人の実体とは？

みすず書房の電子書籍

最新刊あり、ベストセラーあり、古典的ロングセラーあり。また、ただいま電子書籍でのみお求めになれる作品もございます。2017年12月現在、全76点の電子書籍を配信中です。

◆今年、配信開始した電子書籍

10月 **ゲームライフ**
ぼくは黎明期のゲームに大事なことを教わった
M.W. クルーン 武藤陽生訳 2600円

9月 **全体主義の起原** 新版 [全3巻]
H. アーレント 大久保和郎・大島通義・大島かおり訳
矢野久美子解説 ①4500円 ②4800円 ③4800円

9月 **エルサレムのアイヒマン** 新版
H. アーレント 大久保和郎訳 山田正行解説 4400円

7月 **子どもたちの階級闘争**
ブロークン・プリテンの無料託児所から
ブレイディみかこ 2400円

7月 **大不平等**
エレファントカーブが予測する未来
B. ミラノヴィッチ 立木勝訳 3200円

3月 **エコノミックス**
マンガで読む経済の歴史
M. グッドウィン D.E. パー画
脇山美伸訳 3200円

◆現在、電子書籍でのみお求めになれる本(紙の冊子の書籍は品切れまたは在庫僅少です)

- 夜間飛行 サン=テグジュペリ 山崎庸一郎訳 1200円
- 平和か戦争か 戦時の記録 1 ある人質への手紙 戦時の記録 2 心は二十歳さ 戦時の記録 3 サン=テグジュペリ 山崎庸一郎訳 各2200円
- 三ギニー ウルフ 出淵敬子訳 2200円
- 詩心の風光 新版 片山敏彦 2400円
- 谷中、花と墓地 サイデンステッカー 山口徹三編 1900円
- ちいさなカフカ 池内紀 1600円
- なじみの店 池内紀 1700円
- 無口な友人 池内紀 1700円
- あだ名の人生 池内紀 2000円
- 寺田寅彦と現代 池内了 2000円
- 忘却の力 外山滋比古 2000円
- あたまの目 外山滋比古 1400円
- 夜のある町で 荒川洋治 2000円
- 知恵の悲しみの時代 長田弘 2000円
- ブルームズベリーふたたび 北條文緒 1900円

- オシムの伝言 千田善 1900円
- いのちをもてなす 大井玄 1400円
- 傍観者からの手紙 外岡秀俊 1600円
- 通訳者と戦後日米外交 鳥飼玖美子 3000円
- 読書教育 辻由美 1900円
- ふるほん行脚 田中真澄 1900円
- 小さな町で〈大人の本棚〉 フィリップ 山田稔訳 1900円
- ミル自伝〈大人の本棚〉 ミル 村井章子訳 2200円
- 『悪霊』神になりたかった男〈理想の教室〉 亀山郁夫 1000円
- 『白鯨』アメリカン・スタディーズ〈理想の教室〉 異孝之 1000円
- カフカ『断食芸人』〈わたしのこと〉〈理想の教室〉 三原第平 1000円
- バッハ『ゴルトベルク変奏曲』世界・音楽・メディア〈理想の教室〉 小沼純一 1200円
- ランボー『地獄の季節』詩人になりたいあな たへ〈理想の教室〉 野村喜和夫 1200円

福島風景の多くは人の手が入ることで生まれ、長い時間をかけて作り出されてきた里山である。福島原発事故後も、季節のめぐりに応じて、木々は繁り葉を落とし、花は咲く。人間だけが消えてしま

土田ヒロミは日本写真家協会賞、土門拳賞を受賞、戦後の写真史を語る時にかかせない写真家である。四〇年をかけたヒロシマ三部作で知られる。二〇一一年六月、彼は福島の放射能汚染地域に単独行を開始した。以後二〇回通い、同一地点(約三三〇か所)を「定点観測」の手法で撮影した。何年もかけてくり返し撮った写真を並べると、環境の変化や時代の空気が見える。榎葉町、富岡町、飯館村、浪江町……あれほど美しくかった福島の自然が、二〇一三年ご

変容する放射線汚染地域の自然を「定点観測」で撮影

土田ヒロミ

《写真集 フクシマ 2011-2017》



ろから徐々に変わってきた。広い土地の表土を一律五cm、草木と共に剝ぎ取る除染作業の結果、黒いフレコンバッグが山と積み始めたのだ。複雑怪奇だといいたくなる事態がじわじわと進行している。この写真集に写っているのは、自然と人間の共生が崩壊していく記録であり、豊かさへの願望を追い続ける私たちの未来かもしれない。写真190点、カラー、日英二カ国語併記。【二月下旬刊】『写真集』(A4変196頁・二二〇〇〇円)

「2017フクシマ 土田ヒロミ写真展」トークイベントも開催 東京の銀座ニコソラロンドで来年3月7-20日(トーク9日)、大阪ニコンサロンで4月5-18日(トーク6日) ■写真集 西澤丞「福島第一廃炉の記録」3月刊行予定 防護服を着て、福島第一原発の内部を撮り続けている写真家がいる。現場作業員の視線で福島第一原発の廃炉を追った、唯一無二の記録写真集。西澤丞は、日本の工業技術・研究開発を撮る作品の数々で知られてきた。未公開写真を含む一五〇点以上の写真に、豊富な解説・図版を付す。

近現代美術の結節点に屹立

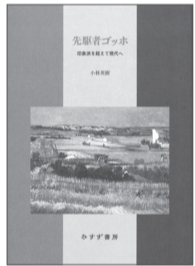
小林英樹 〆先駆者ゴッホ

印象派を超えて現代へ

オランダ時代からオーヴェル時代まで、およそ10年余りの画業のなかでゴッホが求めつづけたのは、絵画独自の平面的でも存在感のある空間表現であった。ゴッホは決して独学の特異なアウトサイダーなのではなく、西洋絵画史の正統的な画家である。だからこそ、20世紀の絵画に与えた影響の大きさもまた、計り知れない。

近現代美術の結節点に屹立するゴッホを、絵画のモチーフと技法に精通した画家ならではの視点で、その造形的

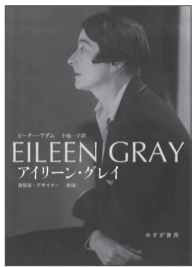
要素と内面性表出の両面から論じ尽くす、スリリングなゴッホ論。カラー図版一〇〇点も併せて収録し、絵画創作の精髓に迫る。【美術】(A5判・296頁・四八〇〇円) ▽「ゴッホ展」東京都美術館で1月8日まで、京都国立美術館で20日より▽映画「ゴッホ 最期の手紙」好評上映中



「あなたの家で過ごした二日の間に、その家の内外のすべての構造に指令を出している、類い稀な魂を称賛する機会をもつことができます」とも「あわせです」(ル・コルビュジエ)。

一九一〇年代半ばには日本人漆職人・菅原精造との共同作業を結実させて先端デザインとして脚光を浴び、二〇年代にはル・コルビュジエも

称賛どころか異様なまでに執着しつづけたモダニズム住宅の粹「E1027」の生みの親。アーティストとしての気質を貫きながら「建築」を模索しつづけたその生涯を、晩



初期モダニズムの女性設計者

ピーター・アダム 〆アイリーン・グレイ

建築家・デザイナー「新版」

年交流したイギリス人映画プロデューサーが豊富な図版を駆使して綴った初の本格評伝。「建築・デザイン」(A5判・336頁・五四〇〇円) ▽映画「ル・コルビュジエとアイリーン 追憶のヴェイラ」全国順次公開中

それは嫉妬か、愛憎か? 巨匠ル・コルビュジエの忘れがたき人——アイリーン・グレイ。全国で好評上映中です。アイルランド・日本外交関係樹立60周年記念事業作品、ル・コルビュジエ生誕130周年記念作品。

災害がほんとうに襲った時ほか全28編

中井久夫集5 〆執筆過程の生理学

1994-1996

患者と治療者、病院が同時に被災した神戸で、精神科医療はどのように行われたのか。従来の通院患者や新規患者への対応、避難住民のケア、さらには医療従事者や災害対策要員への配慮や支援の受け入れの問題まで、精神科医が関与観察した震災の記録を中心に編んだ第5巻。そのほか自らの執筆のプロセスと心理的経過を分析した表題作、河合隼雄氏との出会いを書いた「午込・晴和病院にて」も収録。

図書目録 2018 出来

毎年この時期に作成する小社の総合図書目録ができあがりました。ロングセラー、本年十一月までに刊行した最新刊、シリーズや著作集、オンデマンド版、最近の復刊、電子書籍、在庫僅少本まで、ただいま出庫可能な千点をジャンル別に紹介。本紙添付のハガキでご請求下さい。

みすず書房 営業部だより

10月に社屋を移転しました。旧社屋からも徒歩十分ほどの距離なので「新天地」という感じではありませんが、新しいオフィスはとも気持ちよく、職場環境が変わることによって、心機一転など、ことを久々に経験しました。気分よく、新年を迎えることができそうです。今年も東京国際ブックフェアが中止となり、来年も見送られることが発表されました。引き続き話題の書籍を刊行してまいります。来年もよろしくお申し込み申し上げます。

新装版

12月

知の広場

図書館と自由

アンニョリ インターネット時代を迎え高齢化が進む社会で図書館の役割は? 萱野訳 柳解説 ¥3400

気候変動を理学する

古気候学が変える地球環境観

多田隆治 遺跡に刻まれた古代文字を読むごとく気候変動の痕跡を解く。協力・日立環境財団 ¥3400

グレン・グールド発言集

ロバーツ編 『著作集』と『書簡集』に続く46編。その音楽と人物を愛する人へ。宮澤淳一訳 ¥6400

形式論理学と超越論的論理学

フッサール 論理学の根本法則をいかに現象学的に基礎づけるか。中期の代表作。立松弘孝訳 ¥7400

みすず書房 近刊のお知らせ

2-4月の刊行予定から

- 福島第一 廃炉の記録 西澤丞 捨て石としての沖繩、要石としての沖繩 (仮) 古関彰一・豊下橋彦
- 憲法9条へのカタバシス 木庭顕 廣松渉の思想 渡辺恭彦
- コリアン・シネマ イ・ヒャンジン 武田珂代子訳
- ハリウッド映画と聖書 アデル・ラインハルト 栗原詩子訳
- イサム・ノグチ エッセイ 北代美和子訳
- 石を聴く——イサム・ノグチ伝 ヘイデン・エレラ 北代美和子訳
- 〈電気ショック〉の時代 (仮) E.ショーター/D.ヒーラー 諏訪太郎他訳
- ウェルス・マネジャー 富裕層の金庫番 ブリック・ハリントン 庭田陽子訳
- クレーの日記 [新装・葛西薫デザイン] 高橋文子訳 (www.ms2.co.jp/book/new/ にもご案内)

みすず書房・最近の重版より

- ファン・ゴッホの手紙 二見史郎編訳 岡野寺司訳 ¥5400
- ライフ・プロジェクト ヘレン・ピアソン 大田直子訳 ¥4600
- 子どもたちの階級闘争 プレイディみかこ ¥2400
- 死すべき定め——死にゆく人に何が出来るか アトゥール・ガワンデ 原井宏明訳 ¥2800
- 夜と霧 新版 V. E. フランク 池田香代子訳 ¥1500
- エルサレムのアイヒマン 新版 ハンナ・アーレント 大久保和郎訳 ¥4400
- 全体主義の起原 新版 1 反ユダヤ主義 ハンナ・アーレント 大久保和郎訳 ¥4500
- ヨーロッパ戦後史 [全2巻] トニー・ジャット 森本醇・浅沼澄訳 各¥6400
- エコノミクス——マンガで読む経済の歴史 M. グッドウィン D. E. パー画 脇山美伸訳 ¥3200
- 交換・権力・文化——ひとつの日本中世社会論 桜井英治 ¥5200